

平成22年8月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成22年8月の熱中症による全国の救急搬送の状況を取りまとめたので、その概要を公表します。

【資料】

[平成22年8月の熱中症による救急搬送状況](#)・・・消防庁ホームページに掲載します。



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：長谷川・伊藤・渡邊(俊)
電 話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成22年8月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成22年8月中の救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 背景

平成22年8月は、月を通して日本付近で太平洋高気圧の勢力が強く、東・西日本では、太平洋高気圧に覆われ、各地で猛暑日となるなど晴れて厳しい暑さが続きました。月平均気温は全国的にかなり高く、北・東・西日本では、1946年の地域平均の統計開始以来第1位の高温となり、全国の77地点で8月の月平均気温の高い記録を更新しました。これらの状況から、8月の熱中症による救急搬送人員は昨年及び一昨年と比較し大幅に増加したものと考えられます。

2 ポイント

- ・ 平成22年8月の全国における熱中症による救急搬送人員は28,448人でした。これは、平成21年8月の熱中症による救急搬送人員6,495人の4.38倍、平成20年8月の熱中症による救急搬送人員8,857人の3.21倍となっています。
- ・ 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者(65歳以上)が13,050人(45.9%)と最も多く、次いで成人(18歳以上65歳未満)12,406人(43.6%)、少年(7歳以上18歳未満)2,802人(9.8%)の順となっています。
- ・ 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く16,709人(58.7%)、次いで中等症9,900人(34.8%)、重症860人(3.0%)の順となっています。また、死亡も62人(0.2%)報告されており、平成21年8月の初診時死亡8人の7.75倍、平成20年8月の初診時死亡14人の4.43倍となっています。
- ・ 都道府県別人口10万人当たりの熱中症搬送人員は、鳥取県が最も多く36.57人であり、次いで新潟県34.79人、岡山県33.57人の順となっています。

- ※ 軽 症：入院を必要としないもの
- 中等症：重症または軽症以外のもの
- 重 症：3週間の入院加療を必要とするもの以上
- 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

3 その他

- ・ 熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。
- ・ 政府では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症の情報を提供しています。

環境省熱中症情報 http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/